



NTT コム オンライン共同調査

子育て当事者の課題と子育て支援策のニーズ調査

2023年2月16日 株式会社NTTデータ経営研究所



目 次

調査概要	2
調査結果	
1. 総評	
2. 保護者が日常的に抱えている子育ての課題	
2-1.真っ先に解決したい子育ての課題	
2-2.課題と感じる頻度	9
2-3. 子どもを持つことに対する阻害要因	10
2-4.少子化対策の観点から優先的に解決する必要がある課題	18
3. 子育て関連サービスの認知・利用状況	19
3-1.子育て関連サービスの認知状況	19
3-2. 子育て関連サービスの利用意向	20
3-3. 子育て関連サービスに期待すること	26
4. 子育て関連サービスに対する利用阻害要因	29
4-1.子育て関連サービスの利用阻害要因及び利用促進策	29
4-2.子育て関連サービスに関する要望や行政に期待すること	31



調査概要

1. 調査対象: NTT コム リサーチ クローズド調査 (*1)

2. 調査方法: 非公開型インターネットアンケート

3. 調査期間: 2022 年 8 月 18 日~2022 年 8 月 25 日

4. 有効回答者数:1,050人

5. 標本設計:国内在住の20代~50代の男女を対象

なお、男女は均等に割り付けを実施

6. 回答者の属性(*2)(*3)

【性別】

		実数	%
	全体	1050	100.0
1	男性	487	46.4
2	女性	563	53.6

【年代】

		実数	%
	全体	1050	100.0
1	10代	0	0.0
2	20代	21	2.0
3	30代	351	33.4
4	40代	678	64.6
5	50代	0	0.0
6	60代	0	0.0

【居住地】

		実数	%
	全体	1050	100.0
1	北海道	39	3.7
2	青森県	5	0.5
3	岩手県	6	0.6
4	宮城県	17	1.6
5	秋田県	5	0.5
6	山形県	8	0.8
7	福島県	9	0.9
8	茨城県	17	1.6
9	栃木県	16	1.5





10	群馬県	13	1.2
11	埼玉県	69	6.6
12	千葉県	66	6.3
13	東京都	139	13.2
14	神奈川県	101	9.6
15	新潟県	14	1.3
16	富山県	7	0.7
17	石川県	8	0.8
18	福井県	4	0.4
19	山梨県	3	0.3
20	長野県	14	1.3
21	岐阜県	19	1.8
22	静岡県	21	2.0
23	愛知県	96	9.1
24	三重県	13	1.2
25	滋賀県	9	0.9
26	京都府	21	2.0
27	大阪府	73	7.0
28	兵庫県	65	6.2
29	奈良県	17	1.6
30	和歌山県	4	0.4
31	鳥取県	6	0.6
32	島根県	4	0.4
33	岡山県	12	1.1
34	広島県	23	2.2
35	山口県	9	0.9
36	徳島県	3	0.3
37	香川県	7	0.7
38	愛媛県	11	1.0
39	高知県	2	0.2
40	福岡県	38	3.6
41	佐賀県	4	0.4
42	長崎県	3	0.3
43	熊本県	8	0.8
44	大分県	7	0.7
45	宮崎県	5	0.5
46	鹿児島県	6	0.6
47	沖縄県	4	0.4





【子育て経験の有無と子どもを持つ意向】

		実数	%
	全体	1050	100.0
1	子育て経験がある(子育て中、子育て終了済)	1016	96.8
2	子育て経験がない(将来的に子どもがほしい)	13	1.2
3	子育て経験がない(子どもはほしくない)	21	2.0

【補足】

(*1) NTT コム リサーチ (http://research.nttcoms.com/)

NTT コム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社(http://www.nttcoms.com/)が提供する、高品質で付加価値の高いインターネットリサーチ・サービスである。自社保有パネルとして国内最大級の延べ880万人の登録モニターを擁し、消費者向け調査から、法人向け調査、グループインタビューまで、さまざまな市場調査ニーズに対応している。(モニターの人数は2021年11月現在)

- (*2) 回答者の属性は、回答者のアンケート上の自己申告に基づいている。
- (*3) 回答の構成比は、小数第2位を四捨五入しているため、各構成比の合計は100%にならない場合がある。



調査結果

1. 総評

本調査の結果、子育てに関して解決したい課題として、身体的負担(疲労感)が一番多く挙げられた。また、家事負担や子どもをずっと見ている緊張感など、時間的な余裕が無いことについても解決したいと考える意見が多く、共働きや核家族化が当たり前になりつつある昨今において、子育てを行う人は日常的に心身ともに疲弊していることが改めて明らかになった。

一方、これらの負担を軽減する目的として提供されていると考えられる、家事代行や子どもの一時預かりなどの子育で関連サービスについては利用度が芳しくなく、理由として費用面の問題があると回答した人がほぼ過半数を占めていた。心身ともに負担が強いられる一方で金銭的な余裕も無いことから、「サービスを使いたくても使えない」という状況が浮き彫りとなり、今後のサービス利活用の促進については、費用面の補助が一番効果的な手段であると考えられる。また、現在は紙媒体によるサービス案内が主流であるため、サービスの存在自体の認知が十分でないことや、その他の手段によるサービスの周知不足により、サービスそのものが広く知れ渡り、活用に至っていないという意見も見られた。そのため、自治体のホームページによるサービスの周知や子育で関連のポータルサイトの構築など、サービスへのアクセシビリティを高めるためのデジタル活用の検討も必要になるものと思われる。特に、家事分担をしている家庭や、親がデジタルネイティブとされる若年層である家庭においては前述のサービスの利用や利用意向が高いという結果が出ており、費用面の補助とデジタル活用によるアプローチは効果的であると考えられる。さらに、サービスの品質に対する安全性や個人情報等のセキュリティ面に不安を感じるという意見も少なからず見られ、これらに対して行政や自治体が信頼性を担保することで、サービスの利用促進につながっていくものと考えられる。

上述の課題については、今後、新たに子どもを産むことに対する阻害要因となるという意見が過半数を超えていた。これらの課題解決自体が少子化の抑制にも寄与するものと考えられるため、サービスの利用促進を含めた課題解決の方法に対する検討は今後ますます必要なものとなってくると考えられる。



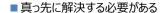
2. 保護者が日常的に抱えている子育ての課題

真っ先に解決したい子育ての課題

◆ 子育ての課題で最も解決ニーズが高いのは「身体的負担(疲労感)が大きいこと」

日々の子育てにおいて、真っ先に解決したい課題は「身体的負担(疲労感)が大きいこと」の解決ニーズが 67.9%と最も高く、次いで「家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと」の 65.0%、「子どもをずっと見て いなければならず、安らぐ時間がないこと」の59.2%が高かった。一方で「子ども以外とコミュニケーション を取る機会がなく、孤独感を感じること」は41.9%と、最も低かった。【図表 2-1】

【図表 2-1】真っ先に解決したい子育ての課題(N=1029)



■解決しなくてもそれほど困らない

ようなサービスがあるか分からないこと

■できれば解決したい

■解決する必要はない (課題意識はない)

身体的負担(疲労感)が大きいこと 16.8 10.6 51.1 家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと 17.3 11.9 47.7 子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと 15.6 13.7 43.6 子どもが病気になった際の対応が分からず、不安であること 11.8 43.0 16.3 子どもの急病時に病院に連れて行くための準備等が大変 12.1 42.6 15.6 であること 子どもの発育や子育てについて、知っている情報が十分で 10.0 42.9 17.7 ないと感じ不安であること 子どもの発育や子育てについて、相談できる人がいないこと 9.7 22.3 36.3 子ども以外とコミュニケーションを取る機会がなく、孤独感を 9.4 32.5 24.0 感じること パートナーの協力・理解不足によるストレスを感じること 13.9 34.7 19.0 子どもを預けたいときに預け先がないこと 14.6 35.3 20.5 子どもの送り迎えが必要な際に依頼できる人がいないこと 13.4 35.9 30.2 20.5 行政手続きや保育園・幼稚園等とのやり取りがアナログで 11.8 32.8 23.1 あるため、作業が煩雑であること 子育てと、家事や仕事の両立について、周りの人がどのよう 9.2 37.1 19.9 に上手く工夫しているか分からないこと 何か子育てに関連するサービスを利用しようとした際、どの 9.1 19.8 39.0

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

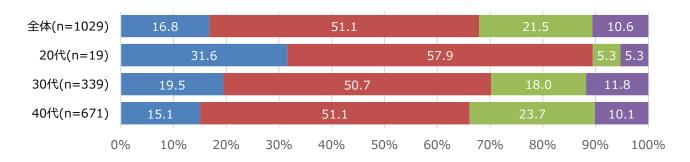


◆ 親の年代別で比較すると、親の年代が若いほど解決ニーズが高い。

日々の子育てにおいて、課題と感じる項目のうち、特に解決ニーズの高かった「身体的負担(疲労感)が大きいこと」「家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと」「子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと」を親の年代別で比較(n=30未満は参考値)するといずれの項目も親の年代が若いほど解決ニーズが高いことがわかった。【図表 2-2】【図表 2-3】【図表 2-4】

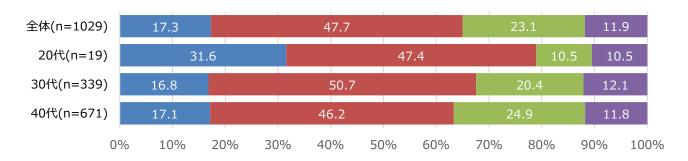
【図表 2-2】身体的負担(疲労感)が大きいこと-親の年代別(N=1029)

■真っ先に解決する必要がある ■できれば解決したい ■解決しなくてもそれほど困らない ■解決する必要はない (課題意識はない)



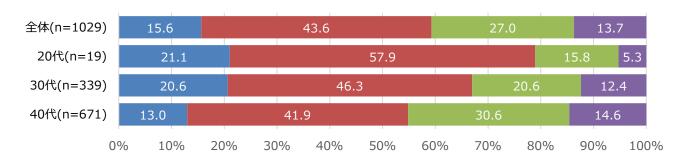
【図表 2-3】家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと-親の年代別(N=1029)

■真っ先に解決する必要がある ■できれば解決したい ■解決しなくてもそれほど困らない ■解決する必要はない (課題意識はない)



【図表 2-4】子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと-親の年代別(N=1029)

■真っ先に解決する必要がある ■できれば解決したい ■解決しなくてもそれほど困らない ■解決する必要はない (課題意識はない)

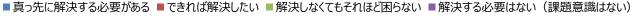


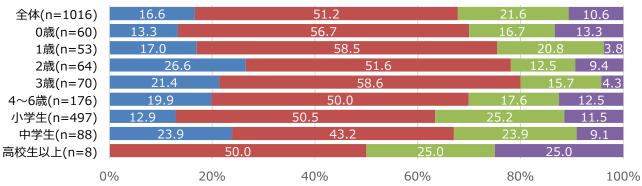


◆ 子どもの年代別で比較すると、親の年代が若いほど解決ニーズが高い。

日々の子育てにおいて、課題と感じる項目のうち、特に解決ニーズの高かった「身体的負担(疲労感)が大きいこと」「家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと」「子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと」を子どもの年代別で比較(n=30未満は参考値)すると、いずれの項目も子どもが2~3歳のときに解決ニーズがピークを迎え、4~6歳で解決ニーズが減少することがわかった。【図表2-5】【図表2-6】【図表2-7】

【図表 2-5】身体的負担(疲労感)が大きいこと-子どもの年代別(N=1016)





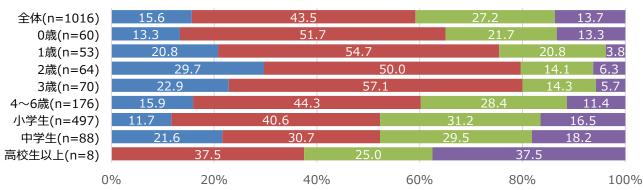
【図表 2-6】家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと-子どもの年代別(N=1016)

■真っ先に解決する必要がある ■できれば解決したい ■解決しなくてもそれほど困らない ■解決する必要はない (課題意識はない)



【図表 2-7】子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと-親の年代別(N=1016)

■真っ先に解決する必要がある ■できれば解決したい ■解決しなくてもそれほど困らない ■解決する必要はない (課題意識はない)





2-2. 課題と感じる頻度

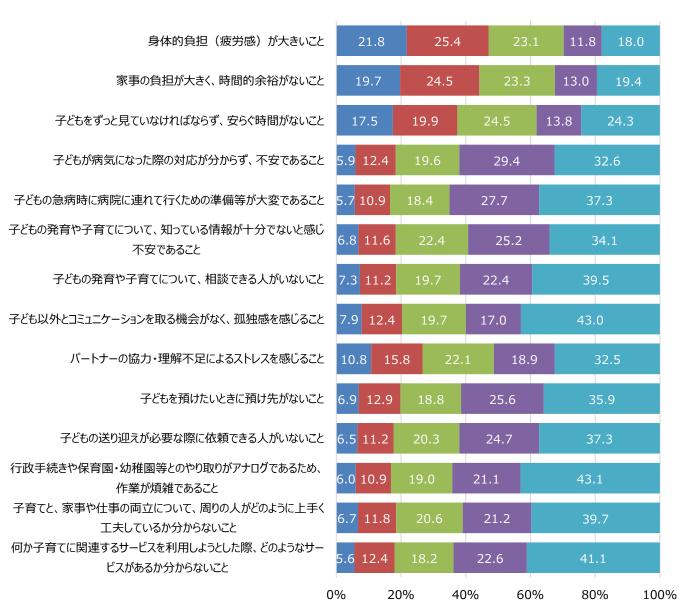
◆ 常態的な課題の中では「身体的負担(疲労感)が大きいこと」が最も高い。

課題と感じる頻度を調査したところ、「ほぼ毎日感じている」は「身体的負担(疲労感)が大きいこと」の21.8%が最も高く、次いで「家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと」の19.7%、「子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと」の17.5%が高かった。一方で「それよりも少ない」は「行政手続きや保育園・幼稚園等とのやり取りがアナログであるため、作業が煩雑であること」の43.1%が最も高く、次いで「子ども以外とコミュニケーションを取る機会がなく、孤独感を感じること」の43.0%が高かった。

また、解決ニーズ(2-1 参照)が高かった「子どもが病気になった際の対応が分からず、不安であること」「子どもの急病時に病院に連れて行くための準備等が大変であること」「子どもの発育や子育てについて、知っている情報が十分でないと感じ不安であること」の頻度は「それよりも少ない」が最も高く、頻度が低い課題でも解決ニーズが高くなることがわかった。【図表 2-8】

【図表 2-8】子育てにおいて課題と感じる頻度 (N=1029)

■ほば毎日感じている ■週に数回程度感じている ■月に数回程度感じている ■年に数回程度感じている ■それよりも少ない







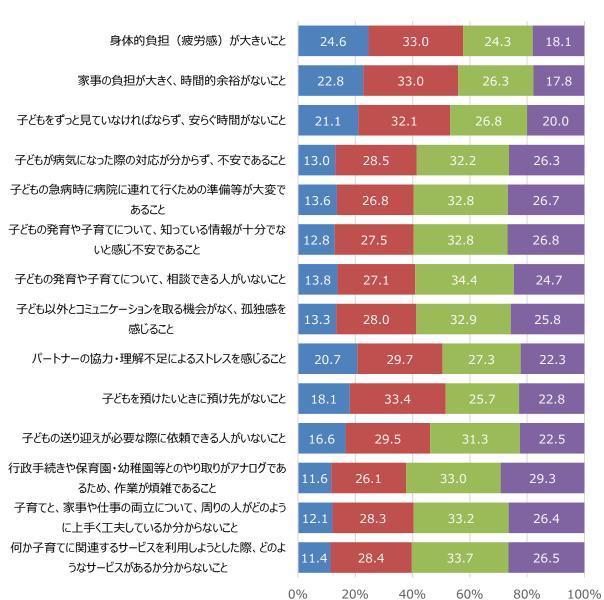
2-3. 子どもを持つことに対する阻害要因

◆ 頻度が低い課題も子どもを持つことの阻害要因となり得る。

課題と感じる項目ごとに子どもを持つことに対する阻害要因を調査してみると「身体的負担(疲労感)が大 きいこと」「家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと」「子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時 間がないこと」「パートナーの協力・理解不足によるストレスを感じること」「子どもを預けたいときに預け先 がないこと | に半数以上の人が「そう思う | 「どちらかといえばそう思う | と回答し、課題の頻度が高い上位 3項目(参照2-2)以外にも「パートナーの協力・理解不足によるストレスを感じること」や「子どもを預け たいときに預け先がないこと | が子どもを持つことに対する阻害要因となっており、頻度が低い課題であって も子どもを持つことの阻害要因となり得ることを示唆している。【図表 2-9】

【図表 2-9】子どもを持つことに対する阻害要因(N=1029)





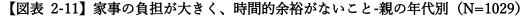


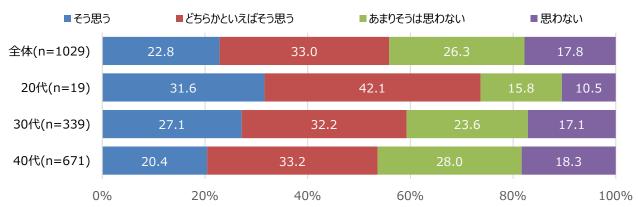
◆ 親の年代が若いほど子育ての課題が子どもを持つことの阻害要因に感じやすい傾向にある。

子どもを持つことに対する阻害要因として「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答数が多かった 上位 5 項目を親の年代別に比較(n=30 未満は参考値)すると、すべての項目で親の年代が若いほど子どもを 持つことに対する阻害要因となっており、親の年代が若いほど子育ての課題が子どもを持つことの阻害要因 に感じやすい傾向にあることが示唆される。【図表 2-10】【図表 2-11】【図表 2-12】【図表 2-13】【図表 2-14】

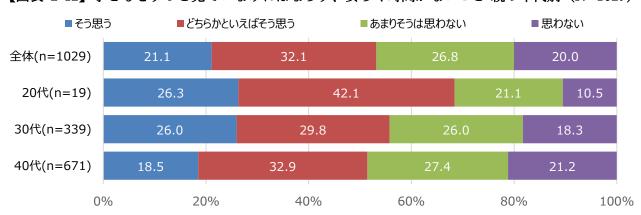
■そう思う ■どちらかといえばそう思う ■あまりそうは思わない ■思わない 全体(n=1029) 24.6 33.0 18.1 20代(n=19) 26.3 42.1 10.5 29.8 17.1 30代(n=339) 31.6 40代(n=671) 21.9 33.5 25.8 18.8 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【図表 2-10】身体的負担(疲労感)が大きいこと-親の年代別(N=1029)



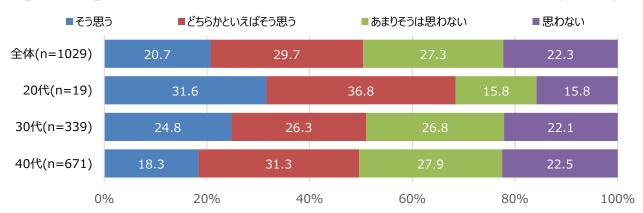


【図表 2-12】子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと-親の年代別(N=1029)

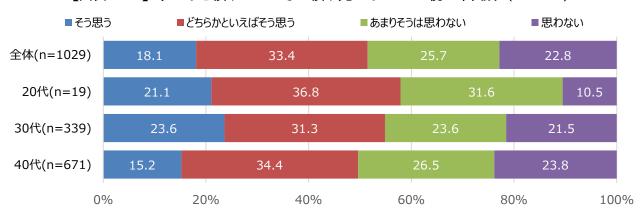




【図表 2-13】パートナーの協力・理解不足によるストレスを感じること-親の年代別(N=1029)



【図表 2-14】子どもを預けたいときに預け先がないこと-親の年代別 (N=1029)

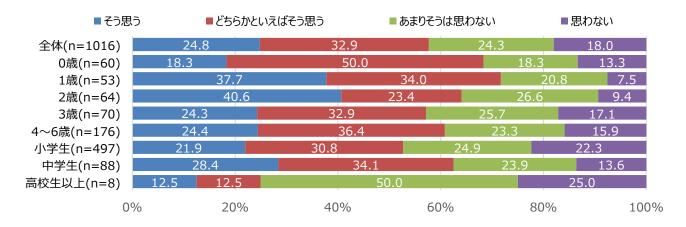




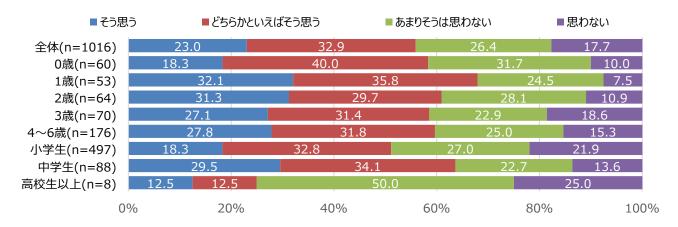
▶ 1~2歳の子どもを持つ親を中心に、課題に対して子どもを持つことの阻害要因と感じる割合が高い。

子どもを持つことに対する阻害要因として「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答数が多かった 上位5項目を子どもの年代別に比較してみるとすべての項目で1~2歳の子どもを持つ親が課題に対して子ど もを持つことの阻害要因と感じる割合が高い。【図表2-15】【図表2-16】【図表2-17】【図表2-18】【図表2-19】

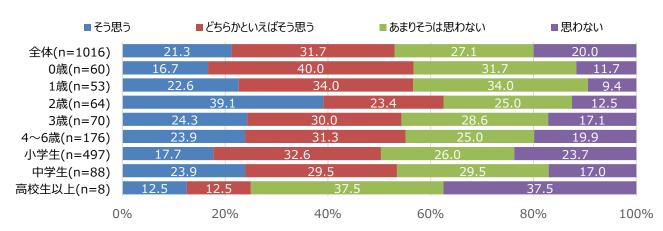
【図表 2-15】身体的負担(疲労感)が大きいこと-子どもの年代別(N=1029)



【図表 2-16】家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと-子どもの年代別(N=1029)

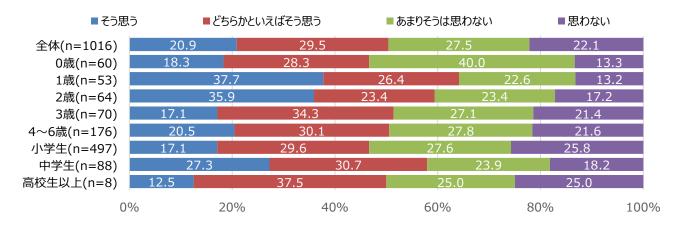


【図表 2-17】子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと-子どもの年代別 (N=1029)

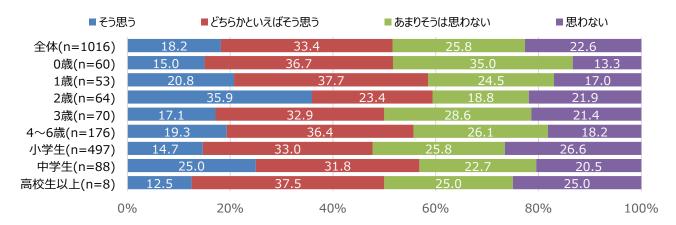




【図表 2-18】パートナーの協力・理解不足によるストレスを感じること-子どもの年代別(N=1029)



【図表 2-19】子どもを預けたいときに預け先がないこと-子どもの年代別(N=1029)



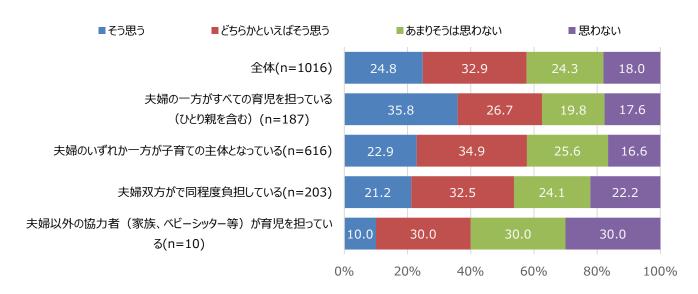


◆ 育児分担のバランスがよい夫婦の方が子育ての課題に対して子どもを持つことの阻害要因と感じにくい 傾向にある。

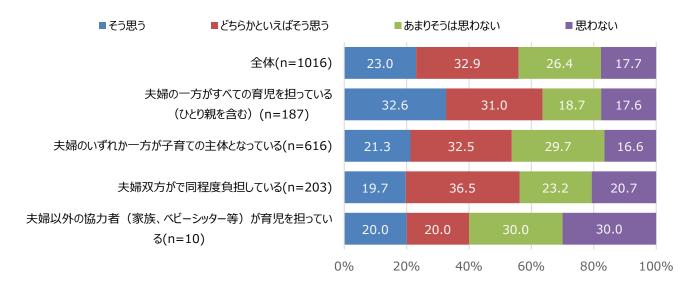
子どもを持つことに対する阻害要因として「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答数が多かった 上位 5 項目を子どもの年代別に比較(n=30 未満は参考値)すると、すべての項目で育児分担のバランスがよ い夫婦の方が子育ての課題に対して子どもを持つことの阻害要因と感じにくい傾向にあることがわかった。

【図表 2-20】 【図表 2-21】 【図表 2-22】 【図表 2-23】 【図表 2-24】

【図表 2-20】身体的負担(疲労感)が大きいこと-夫婦間の育児分担別(N=1029)

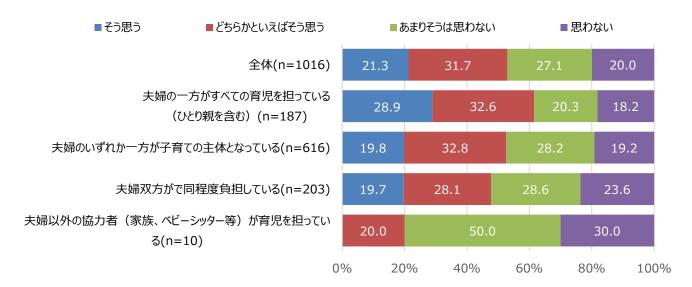


【図表 2-21】家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと-夫婦間の育児分担別(N=1029)

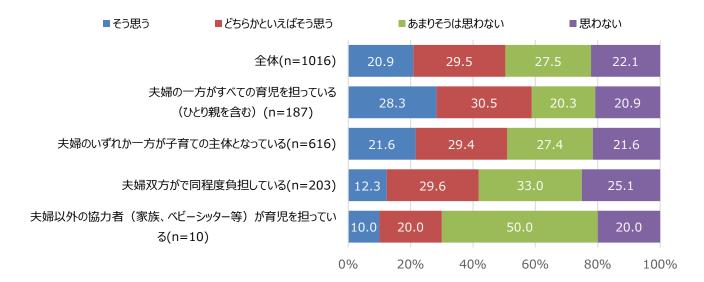




【図表 2-22】子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと-夫婦間の育児分担別 (N=1029)



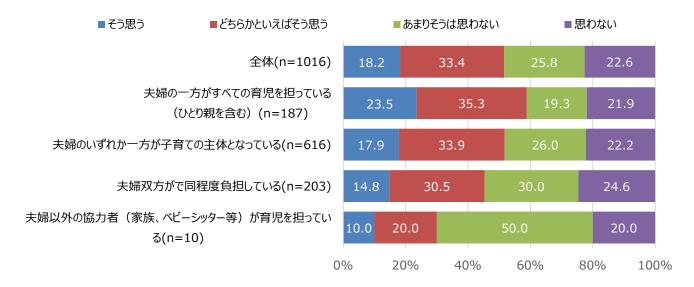
【図表 2-23】パートナーの協力・理解不足によるストレスを感じること-夫婦間の育児分担別 (N=1029)







【図表 2-24】子どもを預けたいときに預け先がないこと-夫婦間の育児分担別(N=1029)



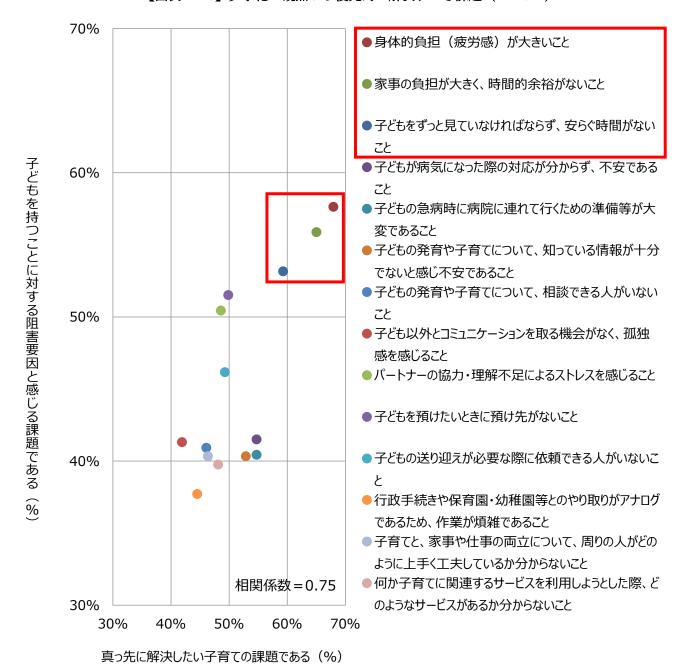


2-4. 少子化対策の観点から優先的に解決する必要がある課題

◆ 少子化対策に向けた子育て当事者の課題解決では「身体的負担(疲労感)が大きいこと」「家事の負担が 大きく、時間的余裕がないこと」「子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと」の解 決が重要である。

真っ先に解決したい子育ての課題と子どもを持つことに対する阻害要因と感じる課題を相関分析すると、両者には相関があるといえる。中でも「身体的負担(疲労感)が大きいこと」「家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと」「子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと」で真っ先に解決したい課題、子どもを持つことに対する阻害要因と感じる課題の割合が高いことから、少子化対策に向けた子育て当事者の課題解決では前述の3項目の解決が重要となることがわかった。【図表 2-25】

【図表 2-25】少子化の観点から優先的に解決すべき課題(N=1029)





3.子育て関連サービスの認知・利用状況

3-1. 子育て関連サービスの認知状況

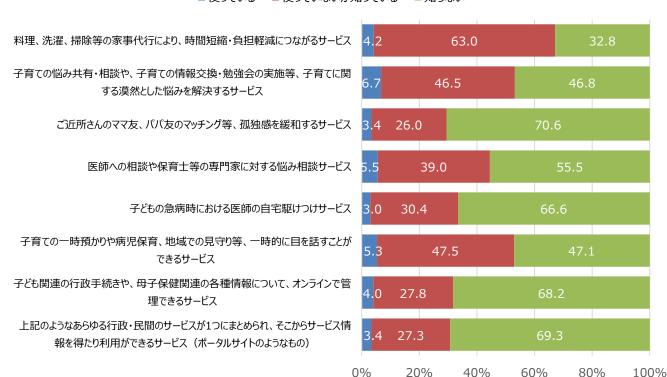
◆ 子育て関連サービスの認知・利用拡大余地は大きい。

子育でサービスの認知状況・利用状況を調査したところ、認知度は「料理、洗濯、掃除等の家事代行により、時間短縮・負担軽減につながるサービス」が最も高く、次いで「子育ての悩み共有・相談や、子育ての情報交換・勉強会の実施等、子育でに関する漠然とした悩みを解決するサービス」が高かった。一方で、多くのサービスにおいて「知らない」という回答が約半数およびそれ以上の割合を占めており、認知の拡大余地が大きいことが伺えた。

また、利用状況については、「子育ての悩み共有・相談や、子育ての情報交換・勉強会の実施等、子育てに関する漠然とした悩みを解決するサービス」が 6.7%で最も高く、次いで「医師への相談や保育士等の専門家に対する悩み相談サービス」「子育ての一時預かりや病児保育、地域での見守り等、一時的に目を話すことができるサービス」など、悩み相談や一時預かりのサービスの利用割合が比較的高かった。【図表 3-1】

【図表 3-1】サービスの認知、利用の状況(N=1029)

■使っている ■使っていないが知っている ■知らない



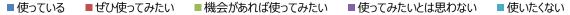


3-2. 子育て関連サービスの利用意向

◆ 「急病への対応」「サービスの情報収集」「手続きのオンライン化」など様々な場面で一定のサービス利用 意向がみられた。

サービス利用のない人に対して、各サービスの利用意向を調査したところ、「子どもの急病時における医師の自宅駆けつけサービス」の利用意向が最も高く、次いで「あらゆる行政・民間のサービスが1つにまとめられ、そこからサービス情報を得たり利用ができるサービス(ポータルサイトのようなもの)」「子ども関連の行政手続きや、母子保健関連の各種情報について、オンラインで管理できるサービス」が高かった。これらのサービスはいずれも認知度が50%以下のサービスであった(3-1参照)ため、認知度拡大によって今後の利用拡大が期待される。【図表 3-2】

【図表 3-2】サービスの利用意向(N=986)



料理、洗濯、掃除等の家事代行により、時間短縮・負担軽減につながるサービス

子育ての悩み共有・相談や、子育ての情報交換・勉強会の実施等、子育てに関する漠然とした悩みを解決するサービス

ご近所さんのママ友、パパ友のマッチング等、孤独感を緩和するサービス

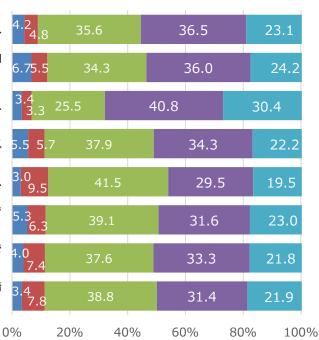
医師への相談や保育士等の専門家に対する悩み相談サービス

子どもの急病時における医師の自宅駆けつけサービス

子育ての一時預かりや病児保育、地域での見守り等、一時的に目を話すことができるサービス

子ども関連の行政手続きや、母子保健関連の各種情報について、オンラインで管理できるサービス

上記のようなあらゆる行政・民間のサービスが1つにまとめられ、そこからサービス情報を得たり利用ができるサービス(ポータルサイトのようなもの)





株式会社NTTデータ経営研究所

◆ 「子育てにおいて真っ先に解決したい課題」に関わるサービス利用の意向は必ずしも高くない。

2-1 で明らかになった、「子育てにおいて真っ先に解決したい課題」に関連するサービスの利用に関する状況を確認するため、「身体的な疲労感の軽減/解消」「時間短縮/効率化」の解決が特に期待されるサービスの認知度や利用意向を確認したところ、サービスに対する利用意向は他のサービスと比べて必ずしも高くないという結果となった(【図表 3-3】 【図表 3-4】)。各サービスを利用する上での何らかの障壁があることが想定される。各サービスを利用したいと思わない理由については、4-1 にて分析を行った。

子育てにおいて真っ先に解決したい課題(2-1,2-4)

- 身体的負担(疲労感)が大きいこと
- 家事の負担が大きく、時間的余裕がないこと
- 子どもをずっと見ていなければならず、安らぐ時間がないこと
- ⇒子育て関連サービスに期待することのうち、特に**「身体的な疲労感の軽減/解消」「時間短縮/効率 化」**の解決が期待されるサービスに注目

【図表 3-3】子育て関連サービスに期待すること

	身体的な疲労の軽減/解消		時間短縮/効率化		「雑さ/わずらわし からの解放		孤独感の軽減/ 解消	情報交換/共有	突発的な事象への 対応	その他
料理、洗濯、掃除等の家事代行により、時間短縮・負担軽減につながるサービス		67%	58	%	26%	16%	7%	4%	5%	0%
子育ての悩み共有・相談や、子育ての情報交換・勉強会の実施等、子育てに関する漠然とした 悩みを解決するサービス		23%	19	%	17%	39%	30%	37%	6%	0%
ご近所さんのママ友、パパ友のマッチング等、孤独感を緩和するサービス		18%	19	%	18%	28%	34%	33%	3%	0%
医師への相談や保育士等の専門家に対する悩み相談サービス	:	16%	14	%	11%	42%	16%	27%	29%	0%
子どもの急病時における医師の自宅駆けつけサービス	:	20%	16	%	14%	36%	11%	8%	47%	0%
子育ての一時預かりや病児保育、地域での見守り等、一時的に目を話すことができるサービス	4	41%	18	%	16%	39%	15%	11%	26%	0%
子ども関連の行政手続きや、母子保健関連の各種情報について、オンラインで管理できるサービス		19%	40	%	36%	22%	9%	20%	8%	0%
上記のようなあらゆる行政・民間のサービスが1つにまとめられ、そこからサービス情報を得たり利用ができるサービス(ボータルサイトのようなもの)		18%	40	%	37%	20%	11%	26%	7%	0%

【図表 3-4】子育て関連サービスの認知度・利用意向

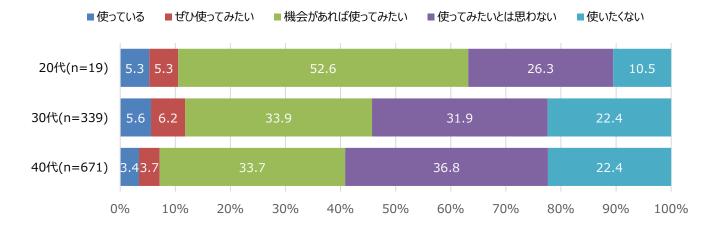
「身体的疲労感	料理、洗濯、掃除等の家事代行により、時間短	認知度が高い一方で、「ぜひ使ってみたい」
の軽減/解消」に	縮・負担軽減につながるサービス	は 4.8%と、他のサービスと比較しても低い
対する期待の高	子育ての一時預かりや病児保育、地域での見	認知度が高い一方で、「ぜひ使ってみたい」
いサービス	守り等、一時的に目を話すことができるサー	は 6.3%とあまり高くない
	ビス	
時間短縮/効率	料理、洗濯、掃除等の家事代行により、時間短	認知度が高い一方で、「ぜひ使ってみたい」
化に対する期待	縮・負担軽減につながるサービス	は 4.8%と、他のサービスと比較しても低い
の高いサービス	子ども関連の行政手続きや、母子保健関連の	「ぜひ使ってみたい」は7.4%と比較的高い
	各種情報について、オンラインで管理できる	
	サービス	
	上記のようなあらゆる行政・民間のサービス	「ぜひ使ってみたい」は 7.8%と比較的高い
	が1つにまとめられ、そこからサービス情報	
	を得たり利用ができるサービス(ポータルサ	
	イトのようなもの)	



◆ 親の年代が若い方がサービス利用率・サービス利用意向が高い。

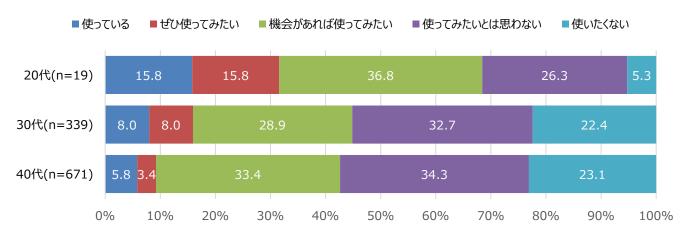
サービスの利用有無および利用意向を親の年代別で比較(n=30 未満は参考値)すると、親が 40 代よりも 20 代・30 代の方がサービスの利用率および利用意向が高い傾向にあった。【図表 3-5】【図表 3-6】【図表 3-7】 【図表 3-8】

【図表 3-5】子育て関連サービスの認知度・利用意向 (料理、洗濯、掃除等の家事代行により、時間短縮・負担軽減につながるサービス)



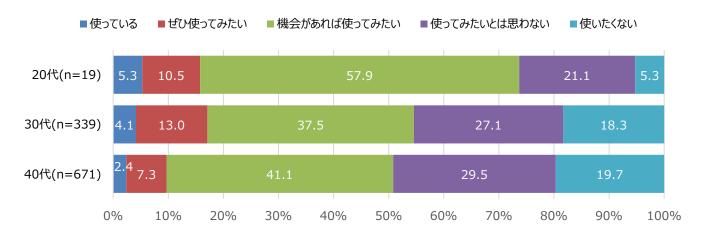
【図表 3-6】子育て関連サービスの認知度・利用意向

(子育ての悩み共有・相談や、子育ての情報交換・勉強会の実施等、子育てに関する漠然とした悩みを解決するサービス)

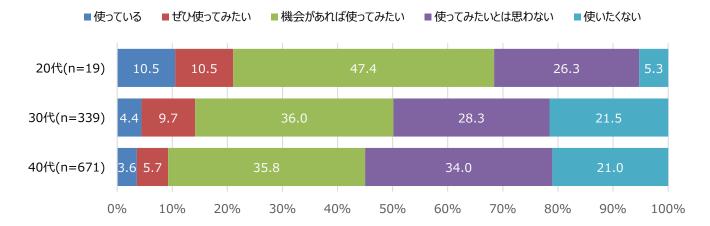




【図表 3-7】子育て関連サービスの認知度・利用意向(子どもの急病時における医師の自宅駆けつけサービス)



【図表 3-8】子育て関連サービスの認知度・利用意向 (子ども関連の行政手続きや、母子保健関連の各種情報について、オンラインで管理できるサービス)

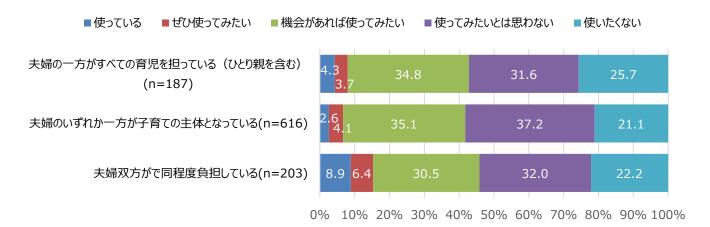




◆ 育児分担の状況別で比較すると、「夫婦双方が同程度で負担している」層がサービス利用率・サービス利用 意向が最も高い。

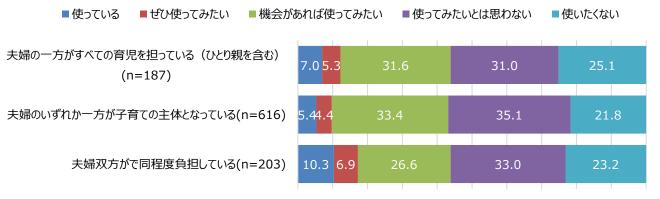
サービスの利用有無+利用意向を育児分担の状況で比較すると、いずれのサービスにおいても育児を「夫婦双方が同程度で負担している」層のサービスの利用率および利用意向が最も高い傾向にあった。【図表 3-9】 【図表 3-10】【図表 3-11】【図表 3-12】

【図表 3-9】子育て関連サービスの認知度・利用意向 (料理、洗濯、掃除等の家事代行により、時間短縮・負担軽減につながるサービス)



【図表 3-10】子育て関連サービスの認知度・利用意向

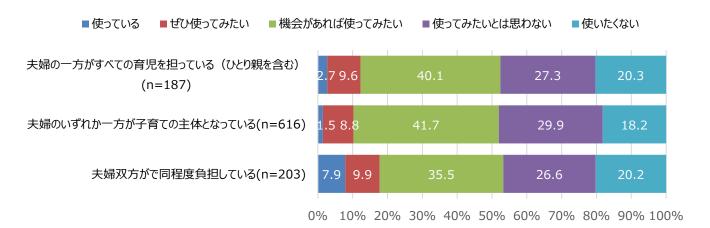
(子育ての悩み共有・相談や、子育ての情報交換・勉強会の実施等、子育てに関する漠然とした悩みを解決するサービス)



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

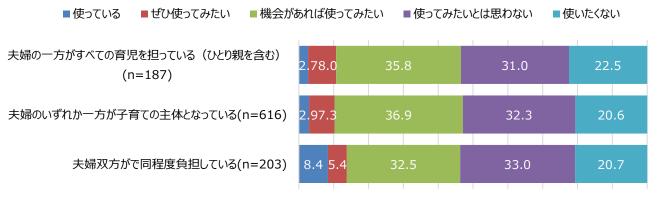


【図表 3-11】子育て関連サービスの認知度・利用意向 (子どもの急病時における医師の自宅駆けつけサービス)



【図表 3-12】子育て関連サービスの認知度・利用意向

(子ども関連の行政手続きや、母子保健関連の各種情報について、オンラインで管理できるサービス)



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%





子育て関連サービスに期待すること 3-3.

◆ 子育て関連サービスに対するニーズ(期待すること)は多様。男女比較では、女性の方が精神的負担の軽 減への期待が大きい。

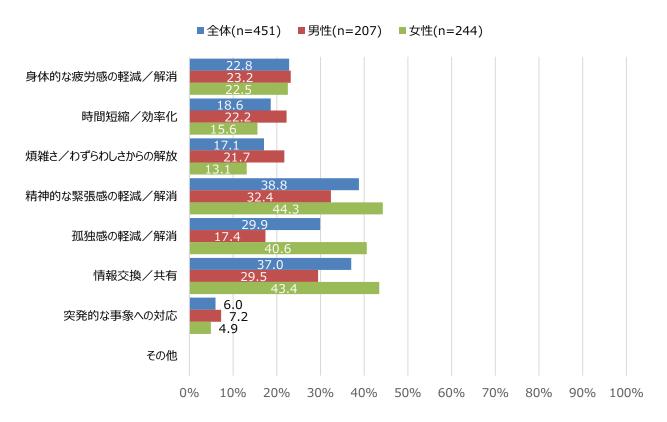
サービスを使っていると回答した割合の高いサービス(「子育ての悩み共有・相談や、子育ての情報交換・ 勉強会の実施等、子育てに関する漠然とした悩みを解決するサービス」「医師への相談や保育士等の専門家に 対する悩み相談サービス」)、利用意向の高いサービス(「子どもの急病時における医師の自宅駆け付けサービ ス」「あらゆる行政・民間のサービスが1つにまとめられ、そこからサービス情報を得たり利用ができるサー ビス」)について、子育て関連サービスに期待することを調査した。

調査の結果、相談や情報共有のサービスは「精神的な緊張感の軽減」「情報交換」「孤独感の解消」、急病時 の医師駆けつけサービスは「精神的な緊張感の軽減」「突発的な事象への対応」、サービスがまとめられたポー タルサイトのようなサービスは「時間短縮・効率化 | 「煩雑さからの解放 | などにおいて期待されていること が分かり、子育て関連サービスに期待されるニーズは多様であることが伺えた。

また、男女の比較においては、特に女性において、精神的な緊張感の軽減や孤独感の解消など、子育ての精 神的負担の軽減への寄与が期待されていることが示唆された。【図表 3-13】 【図表 3-14】 【図表 3-15】 【図表 3-16]

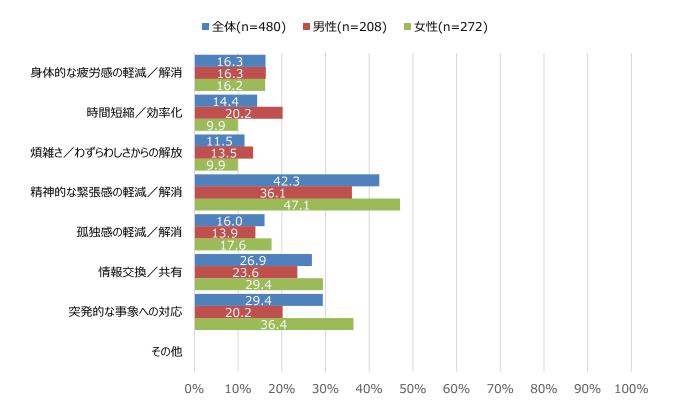
【図表 3-13】サービスに期待すること

(子育ての悩み共有・相談や、子育ての情報交換・勉強会の実施等、子育てに関する漠然とした悩みを解 決するサービス)(N=451)

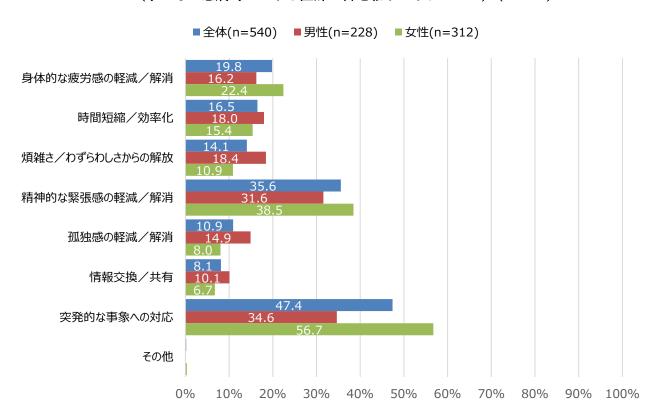




【図表 3-14】サービスに期待すること (医師への相談や保育士等の専門家に対する悩み相談サービス) (N=480)



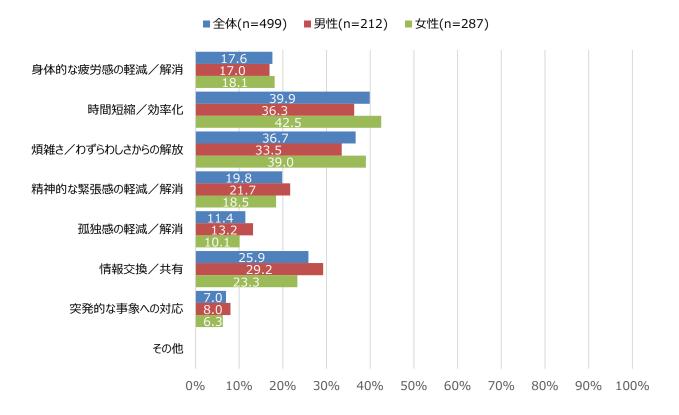
【図表 3-15】サービスに期待すること (子どもの急病時における医師の自宅駆けつけサービス) (N=540)





【図表 3-16】サービスに期待すること

(あらゆる行政・民間のサービスが 1 つにまとめられ、そこからサービス情報を得たり利用ができるサービス (ポータルサイトのようなもの)) (N=499)





4.子育て関連サービスに対する利用阻害要因

4-1. 子育て関連サービスの利用阻害要因および利用促進策

◆ 費用負担が子育て関連サービスの利用意向を阻害する大きな要因になっている。認知の拡大も課題。

子育て関連サービスを「使ってみたいと思わない」理由を調査したところ、「費用が高い/高そう」が全サービスにおいて突出して高い割合を占めた。【図表 4-1】

また、「その他、子育て関連サービスに関する要望や行政に期待すること」では、費用負担軽減を求める意見が多数を占め、費用負担がサービス利用の大きな阻害要因の1つとなっていることが伺えた。加えて、サービス認知向上に関する意見としてデジタル活用の有効性も確認できた。【図表 4-2】

以上の考察とサービス認知拡大の余地が大きい現状 (3-1 参照) を踏まえると、子育て関連サービスの利用 促進策として費用面の補助とデジタル活用によるサービスアクセシビリティの向上が効果的であるといえる。

【図表 4-1】各サービスを使ってみたいと思わない理由(N=1029, 複数回答)

- ■費用が高い/高そう
- ■信頼性・品質面に不安がある
- ■サービスを利用しても子育ての負担が軽減されない
- ■その他

- ■使い勝手が悪い/悪そう
- ■個人情報等セキュリティ面が不安
- ■親としてできる限り自らの手で対応したい/子どもに対する罪悪感がある

料理、洗濯、掃除等の家事代行により、時間短縮・負担軽減 につながるサービス(n=588)

子育ての悩み共有・相談や、子育ての情報交換・勉強会の実施等、子育てに関する漠然とした悩みを解決するサービス (n=578)

ご近所さんのママ友、パパ友のマッチング等、孤独感を緩和する サービス(n=708)

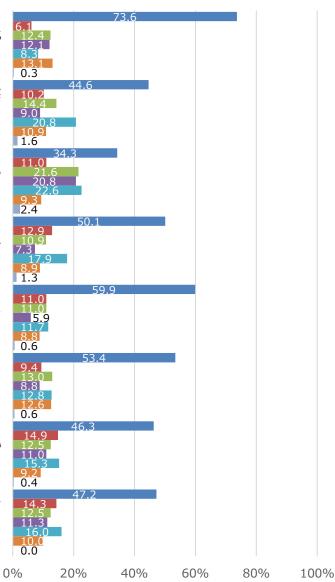
医師への相談や保育士等の専門家に対する悩み相談サービス (n=549)

子どもの急病時における医師の自宅駆けつけサービス (n=489)

子育ての一時預かりや病児保育、地域での見守り等、一時的 に目を話すことができるサービス(n=532)

子ども関連の行政手続きや、母子保健関連の各種情報について、オンラインで管理できるサービス(n=544)

上記のようなあらゆる行政・民間のサービスが1つにまとめられ、そこからサービス情報を得たり利用ができるサービス(ポータルサイトのようなもの)(n=530)







【図表 4-2】その他、子育て関連サービスに関する要望や行政に期待すること(自由回答) <サービス利用阻害要因に関連する意見>

費用負担軽減	● とにかくお金がかかるので、行政に負担してほしい。
	● 子育てはずっと続くので、費用面のサポートをもっとしてほしい
	● 子供に関わるサービスに所得制限を設けないこと。
サービスの認知	● 子育て行政サービスにどのような種類があるか分からないことがあるので周知し
向上	てほしい
(どのようなサ	● LINE などの SNS を活用してより身近にサービスを周知してもらえること
ービスがあるの	● 役所のサイトに、新着情報のリストではなく、ケースごとのサービスへのリンク
か、周知を図	もしくはサービス一覧を置いてほしい。新着情報では「元々情報を知っている
る)	人」でなければピンとこない。子育て当事者の忙しすぎる脳に、必要なものを把
	握し考える余裕はない。考えなくても利用できるよう行政のほうから定期的にお
	すすめしてほしい。



4-2. 子育で関連サービスに関する要望や行政に期待すること

◆ 行政に期待することとして、行政手続きの利便性向上、子育てしやすい環境の整備、サービスの利便性向上などが挙げられた。

子育て関連サービスに関する要望や行政に期待することについて調査したところ、子育てに関する行政手続きの利便性向上、子育てしやすい環境の整備・支援の充実、子育て関連のサービスの利便性向上・拡充などが挙げられた。【図表 4-3】

【図表 4-3】その他、子育て関連サービスに関する要望や行政に期待すること(自由回答) <全般が意見>

子育てに関する	● 行政のサービスが使いにくい、古い点を改善してほしい。マイナンバーの登録時
行政手続きの簡	に家族全員のスマホが申請の対象でなく、結局、市役所に赴く羽目になったりと
素化•利便性向	いうことがあったので利便性の改善が一番だと思う。
上	● 相談窓口の設置
	● たらい回しは嫌なので子育てに関する部署は専任にしてほしい。
子育てしやすい	● 地域の図書館、美術館、博物館、公共施設などに乳幼児向けのソフトプレイや、
環境の整備・支	プレイグループを増やすこと
援の充実	● 子育てのしやすい環境や支援をお願いしたい。
サービスの利便	● 土日祝日対応、24時間サービスを充実させてほしい
性向上・拡充	● 気軽に、短時間でもたすけてもらえる。病児を預かってもらえる場所が少なく、
	利用登録などが煩雑すぎて使うまでに至れない。
	● 費用が気になったり枠が空いてなくて利用できなかったり、敷居が高いイメージ
	です。子供の急病など急を要する時にでもスマホですぐ預かりサービスを予約・
	利用できるなど、心身ともに子育てに余裕を与えてくれるサービスを期待してい
	ます。



<調査結果の利用について>

- ・本調査は、株式会社NTTデータ経営研究所とNTTコムオンライン・マーケティング・ソリューション株式会社が共同で行っており、本調査結果の著作権は、株式会社NTTデータ経営研究所とNTTコムオンライン・マーケティング・ソリューション株式会社が保有します。
- ・調査結果の一部を転載・引用される場合は、出所として「NTT データ経営研究所/NTT コム オンライン・マーケティング・ソリューション」または「NTT データ経営研究所/NTT コム リサーチ」と併記した上で、掲載日・掲載媒体・引用箇所などの情報につきましては広報担当までお知らせください。
- ・調査結果について、出所を明記せずに転載・引用を行うこと、データの一部または全部を改変することなどの行為はご遠慮ください。
- ・本アンケート調査の生データは提供いたしかねます。

【本件に関するお問い合わせ先】

■ 報道関係のお問い合わせ先 株式会社NTTデータ経営研究所 コーポレート統括本部 業務基盤部 広報担当

Tel: 03-5213-4016

E-mail: webmaster@nttdata-strategy.com

■ 内容に関するお問い合わせ先 株式会社NTTデータ経営研究所

ライフ・バリュー・クリエイションユニット アソシエイトパートナー 米澤 麻子 シニアコンサルタント 野村 佳織

Tel:03-5213-4048

ビジネストランスフォーメーションユニット アソシエイトパートナー 河本 敏夫 コンサルタント 山内 順平

Tel:03-5213-4140

デジタルイノベーションコンサルティングユニット シニアマネージャー 伊藤 貴博

Tel:03-5213-4140